

必読！クラフラグビーを知ろう！

東日本トップクラブリーグ2009

～トップクラブ・イーストのご紹介～

1. クラブラグビーとは？

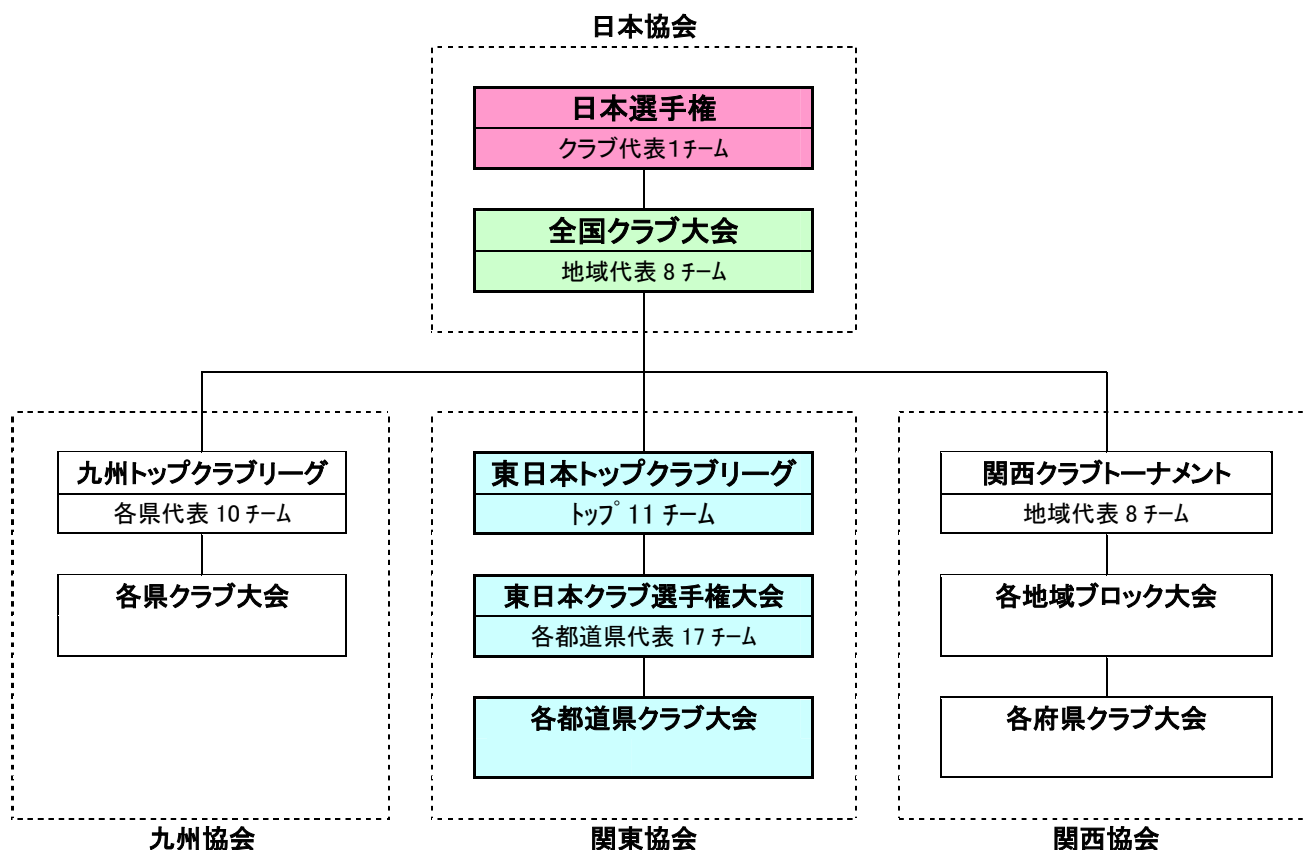
- ・日本のラグビーチームは大きく分けて「社会人」「クラブ」「大学」「高校」となり、クラブは全国で 1,017 のチームがラグビー協会に登録されています。
- ・クラブチームは実力の向上とともに各地域大会も充実され、1993 年から全国大会が開催、2003 年からはクラブ代表も日本選手権への出場資格を与えられています。
- ・少子化などの社会的変化も背景に、クラブラグビーを取り巻く環境も変わり、地域に根ざした「ラグビークラブ」の存在が期待されています。

2. 関東(東日本)のクラブチーム

- ・関東協会には 513 のクラブチームが登録されています。(2007 年度実績)
(大学)180 (高専)12 (高校)532 (中学)105 (クラブ)513
- ・チーム数は高校に次いで多く、競技者数はクラブが最大となっています。

3. 全国のクラブ大会仕組み(日本選手権への道)

- ・3地域(関東・関西・九州)の代表は全国クラブ大会への出場権を与えられ、優勝チームはクラブ代表として日本選手権に出場できます。
- ・大会の仕組み(2008 年度)



4. 東日本トップクラブリーグ =TOP CLUB EAST=

- ・関東協会では「東日本トップクラブリーグ」を頂点としたリーグ戦、地域大会が開催されています。
- ・「トップクラブ」とは実力のみならず、地域に根ざした組織力を有した代表的ラグビークラブです。

【東日本トップクラブリーグの理念】

- ・名実ともに東日本を代表するラグビークラブが所属しています。
- ・競技力、クラブ運営力、地域への貢献度が求められています。

【主な活動のご紹介】 ～リーグ・クラブの取り組み～

- ・リーグ戦をチャリティーの場として位置付け、各種募金活動を行います。
- ・リーグ戦所属クラブ合同によるラグビー祭を開催し、地域共生、貢献活動を行います。
- ・生涯スポーツとしてのラグビークラブ作りを目指し活動しています。
- ・小中学生向けラグビー講習会の開催。
- ・高校生向けのラグビークリニックの開催。
- ・ラグビースチームの設立と支援。
- ・マスターズチームの活動拡大。
- ・ジュニア、レディース、ユース、マスターズ、タッチラグビー、デフラグビー大会の開催。
- ・献血活動
- ・災害への募金活動および支援
- ・植樹活動
- ・障害者スポーツ、学校への支援活動
- ・その他ボランティア活動

5. 解説

日本の「クラブ」とは、欧米の「クラブ」とは言葉は同じであるが実態は大きく異なっている。欧米のスポーツは「クラブ」が主体である。日本のラグビーまたは主要なスポーツは企業チームや学校チームが主体である。そこでプレーをするにはその企業や学校に所属していることが前提となる。一方、少子化により学校でもチームを維持することが危ぶまれ、企業は業績によりチーム存続が影響する。また指導者不足も深刻である。ラグビーにおいても高校のチームは減少傾向にあり、ラグビー部を存続または維持することが出来ない現状に直面している。しかるにラグビーを愛し、興味を抱きプレーを望む学生や社会人は存在する。

過去、これらラグビーを愛しプレーを望む者たちが集まり同好会的に発展してきたのが日本ラグビーの「クラブチーム」である。これら「クラブチーム」が全国に点在し、チーム数と競技人口は増加したが、競技者や関係者は分散され、本当の「クラブ」としての組織力と運営力を確立することが出来ずに発展してきた。

そこでラグビー協会のクラブ部門では、地域に根ざした真の「クラブ」作りを目指し 2003 年に「クラブラグビー10年構想」を打ち出し、競技力のみならず、生涯スポーツの場として地域に密着し人が集まれるクラブ作りを支援、推進してきた。

この成果として誕生したのが「東日本トップクラブリーグ」であり、これに呼応し努力してきたのが、各地域を代表し現在リーグに所属する各「ラグビークラブ」である。

「東日本トップクラブリーグ」と所属の各「ラグビークラブ」では、特にジュニアや高校生を対象としてラグビーをプレー出来る環境を提供するとともに、指導を主眼において活動を強化している。まだ発展途上ではあるが、各クラブがユースチームを有し、ラグビースチーム大会の実現に向けても努力を続けている。

是非とも、「東日本トップクラブリーグ」と所属「ラグビークラブ」の活動にご理解を頂き、温かいご支援を頂ければ光栄です。

クラブラグビー2008／東日本トップクラブリーグのご紹介

- 発行 関東ラグビーフットボール協会 クラブ委員会
- 編集 東日本トップクラブリーグ・広報ワーキンググループ
- 発行日 2009年2月1日

東日本トップクラブ・クラブ紹介

Division 1

タマリバクラブ

タマリバクラブは2000年に、早稲田ラグビー部OBと、住友商事の社員とが中心になって創設。平日は好きな仕事に励みつつも本気のラグビーを続け、いずれは公式の場で社会人や学生チームを倒す。一方で地域に根差したクラブとして生涯スポーツを支える場を創りたい。これら2つの理念を当初より掲げてきました。チーム名には、「ラグビーを愛好する者たちの“溜まり場”」ということと、発足当時の活動拠点であった「多摩川 = Tama River」、この二つの意味が込められています。

駒場WMM

駒場WMMは2003年に東大ラグビー部OBを中心にメンバーとして設立。創設時より、目標をクラブ日本一とし、東京都の4部リーグより一年ずつ勝ち上がってきました。チーム創設6年目の今年、いよいよクラブ日本一に挑戦する舞台に立つことができました。現在は東大OB以外のメンバーもかなりの数になっています。メンバー一丸となって、常に挑戦者の気持ちで優勝を目指します。

北海道バーバリアンズ

1975年、「高校の授業でボールに触ったことがある」というだけの5人の若者が、グラウンドに集まったことから北海道バーバリアンズは誕生しました。その後、83年に複数チーム制・セレクションパネル・招待選手制を導入、01年にはジュニア・Over35チームの立上げなどクラブ組織へと変貌を遂げ始めました。そして、07年にクラブの「夢」である芝生グラウンドを取得し、現在は地域密着・地域内での価値向上を念頭に活動しています。

三鷹オールカマーズ

1978年5月に東京大学三鷹寮グラウンドで練習していた地域のラグーマンと在寮中の東京大学ラグビー部との出会いにより地域のラグーマンたちが自発的に集まりクラブ創設。

チームの基本理念、『地域に根ざしたラグビー！』
チビッコからオジサンまで、誰でもラグビーを楽しむことができる環境作りを目指しています。また競技力としてシニアチームは、『三鷹市から全国へ』をテーマに活動しています。

高麗クラブ

設立は1977年（創部31年目）。チーム母体は東京朝鮮高校ラグビー部。メンバーは、在日朝鮮人、韓国人のみで構成され東京朝鮮高校、大阪朝鮮高校、神奈川朝鮮高校、朝鮮大学の卒業生45名が在籍。母校である東京朝鮮高校を全面的にサポート、オーバー35チーム、TOPチーム（A&B）の3チーム。在日ラグビーの強さ、楽しさを求めています。クラブラグビーを通じて、日本の方々との交流を深め、地域の方々との交流、全国のクラブラグーマン達との交流、そして<日本選手権でクラブ1勝>に大きく貢献すること。そして多くの在日の子供達、そして日本の子供達へRUGBYの素晴らしさを伝えています。

Division 2

上記のDivision 1（5チーム）のほかに、下位リーグとしてDivision 2（5チーム）が加盟しています。シーズン末にはDiv 1と、DIV 2との間で入替戦が行われます。また、Div 2へ上がるために、東日本クラブ選手権大会との間で入替戦が行われます。

(Division 2) *2009年度

ツクバリアンズ（茨城）、新潟アイビス（新潟）、マンダラ東京（東京）、戸田クラブオーバーザ
トップ（埼玉）、ドラゴンズクラブ（茨城）